

桜



毎年春になると、国際中学校・高等学校の北側と西側の校庭フェンス沿いにある二メートルほどの桜が、ピンク色のちよつと変わったかわいらしい花を咲かせる。

これは、今から十年前に、当時の社会党土井たか子委員長（現社会民主党党首）から贈られたものである。

一九八〇年、本校が開校したときには、メタセコイヤ、ケヤキやツツジなどある程度の植樹も済ませたが、桜は無かった。そのうち、大学や女子大学も移転してきて、田辺校地も俄然賑やかになり、周囲の緑も増え、学園らしい雰囲気となってきた。本校もその後卒業記念などで梅やエノキなどの贈呈があり、樹木も増えてきたが、それでもまだ桜は無かった。丁度このようにときに、土井さんより、桜の苗木贈呈の申し出があり、

土山 登

(元国際中学校・高等学校校長)

本校がその寄贈を受けることになった。桜は新品種のもの五十本で、土井さんが支援者の愛媛県在住の桜研究家から贈られたものを本校に寄贈されたものであった。

植樹に際しては、土井さんが多忙な中にも関わらずわざわざ来校され、松山義則総長とともに植樹式を行った。またその折本校の授業や校内も見えていた。休み時間には生徒がめざとく見つけて窓から歓声をあげたり、握手を求めたりしていたが土井さんも気楽な調子でそれに応じてくださった。

一九八九年四月一八日のことである。

以来、桜は毎年かわいらしい花を咲かせ、生徒や教職員のお目を楽しませている。国際中学校・高等学校の成長とともに元気に育ってほしいものである。